

図書館だより

2018年1月号
図書委員会発行
(担当 1-5)



●新年を迎え・・・●

新年を迎え、「去年はこうだったから今年はこうしよう」と、思うことは人それぞれだと思います。日常生活だけでなく、勉強面ではどうですか？テストで思うように結果を残せなかったという人もいるでしょう。長い問題文や文章を読むことすら面倒くさいよ、という人も多いのが現状だと思います。しかし、私たちが学生である限り、テストや模試はつきまといまいます。さて、どうしましょうか。

●本を読む、ということ●

スマートフォンが普及し、活字を読む習慣が減り、多くの文字を読むのが苦手だという人が多いでしょう。苦手だからといってそのままにしておくわけにもいきません。では、どうすればいいのか。文字を読む練習、つまり本を読めばいいのです。

「本を読む時間を取れない」という声をよく聞きますが、お風呂の時や通学時間中に読むだけでもいいと思います。大切なのは、“読んだ時間ではなく読んだ量”です。

入り口前の展示コーナーです。
今回のテーマは「2018 成年に寄せて」。
先生方の愛犬と、犬にまつわる国内外の
ことわざを紹介しています。



図書委員のおすすめ本

『ようこそ地球さん』 星新一 著 新潮文庫

少々分厚いですが、短編ばかりを集めた本です。一つの話は5～10ページ程度なので、通学中に一話読めたりします。一つ一つの話の斬新な結末、意外な終わり方にきっと“もっと読みたい！”となること間違いなしです。



『どこかの事件』 星新一 著 新潮文庫

こちらは、上で紹介した本よりは薄いので読みやすいかと思います。星さんはショート・ショートという新しい分野の開拓者であり、第一人者です。「これ、長編で書いてもいいのに」と思うような作品も多々ありますが、すべて10ページ程度で話を完結させています。ミステリーとファンタジーが融合した話は何編もまとめられている短編集で、現実的にはありえないような摩訶不思議な出来事が起こります。しかも、どの話も主人公は「ある男」と書かれ、人物名は出てきません。登場人物はあくまで「男」「女」なのです。

例えば、ある話に登場する男性は「隣に座っている男」です。主人公がその男に名前を問いますが、「知らない」と言われます。主人公は彼が記憶喪失ではないかと疑い、質問しますが「知らない」と答えられます。男には、名も過去も何もなかったのです。

このように、ありえないような、でも自分の周りに起こりそうな、そんな話ばかりで引き込まれること間違いなしです。